

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
A：十分達成できている
B：おおむね達成できている
C：やや不十分である
D：不十分である

学校名	江北町立江北中学校
1 前年度 評価結果の概要	・学校評価保護者アンケートの「お子さんが本校の生徒でよかったと思いますか」では、昨年度から3ポイント減少したものの91%の保護者が肯定的な回答であった。学校評価生徒アンケートの「あなたは、学校が楽しいですか」では81%、「あなたは、学校生活の中で相談できる人（先生、スクールカウンセラーや友達など）いますか」では81%の生徒が、友人関係や進路・学習面など、さまざまな面で不安を抱えながらの肯定的な回答であった。このことから今年度の学校教育目標に沿った教育活動はおおむね保護者の理解を得ていると考えられ、また生徒にとっても満足できる教育活動ができたと考えられる。しかし、「学校が楽しい」「学校生活の中で相談できる人がある」と肯定的に答えていない生徒が2割いるので、改善を図っていきたい。また、学校評価生徒アンケート「先生方は、わかる授業に努めていると思いますか」では、昨年度から6ポイント減少し91%、学校評価保護者アンケート「学校は、わかる授業に努めていると思いますか」では、昨年度から11ポイント減少し77%であった。1、2年生の佐賀県小・中学校学習状況調査でも、10教科中7教科が県の正答率を下回る結果から、学力向上への取組が課題である。
2 学校教育目標	自ら学び心豊かにたくましく生きる生徒の育成
3 本年度の重点目標	①基礎学力の定着と「主体的・対話的で深い学び」の実践に向けた授業の工夫・改善を図る。 ②道徳教育及び人権教育を推進・充実させ、心豊かな生徒の育成を図る。 ③生徒指導の三機能を充実させ、自己指導能力の育成を図る。 ④特別支援教育の推進を図る。 ⑤小学校や家庭・地域と連携した教育実践を図る。 ⑥業務の適正化を図り、教育効果を上げる。

4 重点取組内容・成果指標	5 最終評価
---------------	--------

(1)共通評価項目							
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師80%以上	・教職員間でマイプランを共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。	B	・職員会議等でマイプランを再確認することで、全職員の共有化を図り、マイプランを意識した授業実践に努めたが、個人の成果指標の達成状況の結果は、約76%だった。	B	・学力向上は、最も大切な課題です。引き続き頑張ってください。
	○自ら学びに向かう姿勢の育成	○「授業に対して意欲的に取り組めた」「授業で分からないところがあつたら、先生や友達に聞いたり、自分で調べたりするなどして分かるようになる努力をした」に肯定的な回答をする生徒の割合を70%以上	・1時間完結型の授業を実践する。主体的な学びを促すために、「めあて」「課題」「まとめ」「振り返り」を行う。 ・生徒による授業アンケートを実施する。	B	・「『課題』や『めあて』がはっきりして、学習する内容がわかりやすかった」は89%だった。 「授業に対して意欲的に取り組めた」は、92%だった。 「授業で分からないところがあつたら、先生や友達に聞いたり、自分で調べたりするなどして分かるようになる努力をした」は、81%だった。 生徒アンケートの結果から肯定的な回答をした生徒の割合は、成果指標を達成しているものの、教師が見る生徒の授業への取組の様子や家庭学習への取組の様子から、更に育成する必要があると考える。	B	・苦手な勉強の前に得意教科を伸ばし、得意な生徒には他の生徒にどんどん教えてほしい。 ・学力の強化をしてもらいたい。
	○課題の与え方や量の工夫	○「平日の家庭学習の時間」100分以上の生徒の割合を60%以上。	・個に応じて課題の量を調整する。 ・家庭学習アンケートの実施。	C	・すべての職員が個に応じて課題の量の調整を行った。 ・「平日の家庭学習の時間」100分以上の生徒の割合は約49%だった。	C	・毎日どのように過ごしたかスケジュールを記入させ、どの時間に学習できているのか振り返らせてはどうか。子どもの学びに向かうきっかけづくりを行ってほしい。 ・生徒のやる気を引き出すような工夫を行ってほしい。
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○小学校と連携し、全職員で道徳教育に取り組み、深い学びにつながる考え、議論する道徳の授業を実践する。 ○道徳の授業参観や公開授業を年3回以上行う。 ○自他を尊重する態度を称賛する場を多く設定する。	・人権講演会(人権集会)の実施 ・講師を招聘しての研究会を実施し、授業づくりについての共通理解を図る。 ・それぞれの学年を中心に授業研究会を実施する。 ・帰りの会でのハートタイムや道徳コーナーなどを設定する。	A	・講師を招いて人権集会を実施した。全校級で、佐賀県版人権教材を活用した道徳の授業を行った。 ・講師を招聘しての授業研究会は、各学年で実施することができた。研究会を通して、発問の構成や対話活動の設定について協議することで、理解を深めた。 ・ハートタイムの実施については、1・2年生で7割以上の生徒が積極的に取り組むことができている。	B	・思春期の難しい時期だが、傷つきやすい時期でもある。家庭での対話が増えるような課題を出し、親子で考えるような時間があれば他人との違いや思いやりも育まれるのでないか。 ・人権については、広い視野に立ち基本的な考え方をしっかり学ばせることが大切である。
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員90%以上 ○毎月アンケートの実施	いじめの対応についての研修・会議を年間に3回以上行う。 ・学校生活に関するアンケートを毎月実施する。 ・i-check分析の研修会を実施する。	B	・本年度のいじめの認知件数は11件であった。 ・いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教員が約96%だった。 ・年間を通して、学校生活に関するアンケートを毎月実施し、実態把握に努めた。 ・いじめの対応に関して、定期的な会議で情報交換等に努めたが、研修に関しては1回の機会しか設けることができなかった。	B	・生徒会での取り組みを行ってはどうか。
	◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした生徒80%以上	・職業調べ・職場体験・進学説明会など学年ごとの体験活動を踏まえて職業観や正しい進路選択の意識や態度を養い、進路学習を充実させる。	B	・「将来の夢や目標を持っている」と肯定的な回答をした生徒は約78%である。 ・「キャリアパスポート」を活用し、仕事調べや高校調べを通して将来の進路について考えさせた。	B	・様々な職種の方の話を聞く機会の設定を行ってはどうか。
	○教育相談の充実	○日頃の観察や毎月のアンケート、学活ノート等から、トラブルを早期に発見・把握し、適切に対応する。	・教育相談週間を年に2回設定し、全職員で生徒の相談にあたる。 ・SCやSSWと連携し、生徒の実態や担任の思いに応じた対応を行う。	B	・教育相談週間を2回設定できた。生徒にとって、学校生活の中で相談ができる人は、全体の約84%である ・学級担任や教科担任、養護教諭と連絡を取りながら、気になる生徒をカウンセリング等につなぎ、対応にいてSCやSSWとも連携して進めることができた。	B	・生徒へのアンケートについては、学校生活の中ではなく、両親や兄弟姉妹を含め相談できる人を回答させる内容に変更したがよい。 ・子どもSOSの活用もお願いしたい。
●健康・体づくり	●「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●「健康に食事は大切である」と考える児童生徒90%以上 ○保護者への働きかけを行い、朝食喫食率95%以上	・生徒会給食部の活動と連携し、「食」の大切さについて考える活動を行う。 ・栄養教諭と連携を図り、各学級、年1回の食の授業を実践する。	A	・リフレットを活用し、「食」の大切さについて考えさせた。健康に関する調査では、約98%の生徒が肯定的に回答した。 ・保護者への働きかけを行い、朝食喫食率95%だった。 ・生徒会給食部で「給食感謝集会」を実施し、給食の歴史や食の大切さについて発表した。 ・栄養教諭による食についての講話を、各学年に実施することができた。	A	・美味しい食事は、学力と心を育みます。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・学校行事の精選 ・業務の効率化	B	・毎週水曜日を定時退勤日に設定した。 ・家庭訪問の中止や、合唱コンクールと文化発表会を1日開催に変更するなど行事の精選を行った。また、行事については、時間短縮を行った。 ・運営委員会と学年部会の効率化を図り、職員会議の時間短縮を行った。	B	・時間外勤務時間の合計が720時間を超える職員がいなかったのは良かった。 ・家庭訪問は今年度のように自宅確認と希望者のみの訪問でよいのではないか。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目							
重点取組			具体的取組	最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言
○小・中連携教育	○小学校との連携推進	○「江北町の各園・学校の発達段階におけるめざす子どもの姿」の職員への周知100%	・一貫した活動ができるように、校内研究等において、職員へ周知を図る。 ・小学校との合同研修会を開催する。	B	・校内研修等において、校内に掲示し、全職員への周知を図った。 ・学力向上及び学級・学年づくりに関する小中合同の研修会を実施した。	B	・小学校のマチコミメールを登録し、行事等を把握されてはどうか。
○特別支援教育	○特別支援教育の充実	○個別の指導計画、教育支援計画を100%作成する。 ○特別支援教育に関する校内研修会を2回実施する。	・校内支援体制の強化を図り、個別の指導計画、教育支援計画に関する研修会を行い、作成する。	B	・特別支援教育担当者の話し合いを持ち、個別的教育支援計画・指導計画の統一様式を作成した。また、来年度学級数の増加に伴った特別支援学級運営計画を作成した。	B	・体制を強化し、社会人として自立できるように指導してほしい。

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	・学校評価保護者アンケートの「お子さんが本校の生徒でよかったと思いますか」では、昨年度より1ポイント増加し92%の保護者が肯定的な回答であった。学校評価生徒アンケートの「あなたは、学校が楽しいですか」では、昨年度より6ポイント増加し87%、「あなたは、学校生活の中で相談できる人（先生、スクールカウンセラーや友達など）いますか」では、昨年度より3ポイント増加し84%の生徒が、友人関係や進路・学習面など、さまざまな面で不安を抱えながらも肯定的な回答であった。このことから今年度の学校教育目標に沿った教育活動はおおむね保護者の理解を得ていると考えられ、また生徒にとっても満足できる教育活動ができたと考えられる。しかし、「学校が楽しい」と肯定的に答えていない生徒が、昨年度より減少したものの約15%いるので、調査し改善を図っていく。 ・学校評価生徒アンケート「先生方は、わかる授業に努めていると思いますか」では、昨年度より1ポイント増加し92%、学校評価保護者アンケート「学校は、わかる授業に努めていると思いますか」では、昨年度より8ポイント増加し85%であった。1、2年生の佐賀県小・中学校学習状況調査でも、10教科中7教科県の正答率を下回る結果から、具体的な学力向上への取組実践が課題である。
--------------------	---